

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つばめ療育館大曲分館		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2025年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2024年 12月 9日		～ 2024年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご利用時の自主性を重視した活動プログラムとしていること。	他児と関わりながら取り組むことを決めたり、どんなルールにするかを検討したりする機会を意図的に設定している。職員は指示をするのではなく、ご利用児の主体性を引き出すよう関わるようにしている。	ご利用児が主体的な活動が安全にできるように、環境整備に努める。また、活動が職員主導になりすぎないように、声掛けの仕方やご利用児との関わり方について多職種間で研鑽する。
2	様々な体験・経験を積めるよう、長期休暇には多様な外出支援などの活動を取り入れている。	外出先で様々な経験が積めるように、行き先のジャンル(公園、体育館、公共施設等)を限定せず検討している。	外出先での活動の目的、ねらいを明確にし、それをご利用児とも共有することで、社会に出たときの一助となるように支援する。
3	HUGシステムを利用し、利用当日の様子を分かりやすく伝えられていること。	写真を含め利用時の様子を伝えている。取り組み姿勢や表情なども伝えることで、一人で通所していても安心していただけるようにしている。	今後も写真を含めた記録を取ることで、保護者にも安心して利用を継続していただけるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎を行い事業所を利用していただくことが多いため、支援以外の活動のお知らせが十分周知されていないこと。また、その連絡手段が少ないこと(HUGアプリでのお知らせが中心になっている)。	アプリ上の記録やお知らせの配信を見ていただける方とそうでない方がおられるため。	利用開始前にアプリのインストールや活用について、より詳しくお伝えするほか、現在のご利用児にもさらに活用していただけるよう、個別に働きかけていく。
2	小集団での活動が主体のため、より個別での支援が適したご利用児への配慮が難しいこと。	支援室の物理的な環境制限(個室の数)があるため。	個別対応が必要なご利用児に対しては個室を活用する等の対応を行っているが、それでも個別のスペースが必要となった場合はパーテーション等を活用し対応する。
3	支援室がやや手狭であること。	指定基準以上のスペースは確保できているが、ご利用児の年齢層が上がってきており、狭く感じることもある。	支援室各スペースを利用する時間帯やメンバーを分ける等の工夫を今後も継続する。